

令和5年度(第3回) 身近な教育委員会 実施報告

区民が身近に感じる教育委員会の実現に向けて、「身近な教育委員会」を下記のとおり実施しました。

記

・日時 令和6年2月2日(金) 18時30分～20時15分

・場所 教育支援センター研修室(本庁舎南館6階)

・概要

第一部 第3回教育委員会

報告事項「全国学力・学習状況調査から見える
「子どもたちに身に付けさせたい力」

第二部 参加者懇談会

○グループディスカッション・発表

内容要旨は次ページ以降のとおりです。

・参加者 55名

内訳 保護者等 33名

教育長・教育委員 5名

教育委員会事務局関係者 17名



身近な教育委員会の様子

・参加者懇談会＜グループディスカッション＞

テーマ： 学力・授業・家庭学習等について日ごろ思っていること

☆各班からでた意見や考え

○学力

- ・話す力と同時に聞く力を育てたい。
- ・数字にあらわれない力「助け合う力等」を身に付けてほしい。
- ・体験の機会の差により、学力の差が出てしまうのは問題である。
- ・入試が変わらないと点数を求める勉強になってしまう。
- ・認知能力だけでなく、非認知能力を高める取り組みが重要である。
- ・学校教育法に定義されている。①基礎的な知識及び技能の習得 ②思考力、判断力、表現力 ③主体的に学習に取り組む態度。③が特に重要であり、そのことにより①につながってくる。
- ・子どもたちにコピー＆ペーストの文化が浸透しており、自ら考えたことをアウトプットする力がない。

○授業

- ・小学校でも、積極的に教科担任制を導入した方がよいのではないか。
- ・インプットが多めに感じる、think・アウトプットの機会増やしてほしい。
- ・リーダーシップ・伝える力・思考力・交渉力など、中学校の授業はほとんど見たことがない。
- ・個別最適な学習のために、個別学習、タブレットの活用が重要である。
- ・探求学習のため、『本物』に触れる機会を増やすほうがよい。
- ・反転学習といって、家庭学習であらかじめ学んだことを授業で深めるといった手法もある。
- ・間違いを恐れてはいけない、間違っても良いから発言することが大切である。
- ・学校では、テストの点数など、数値化が可能なものに重きを置いている。
- ・タブレットが十分に活用されていない、トラブルの原因になることもある。
- ・最近の授業は子どもの発言の機会、児童・生徒の意見を聞くことが多い。
- ・算数、数学で習熟度別授業が展開されているなど、授業が工夫されていると感じる一方、未だにドリル学習をしており、必要性に疑問を感じる。
- ・積極的な話し合いをすることで課題に対して自分たちで考え、決める力が身についていく。

○家庭学習

- ・主に塾の宿題になってしまっている。
- ・家庭で勉強する習慣が身についていない。
- ・保護者が学びのアップデートがされていなくて「板橋区授業スタンダード」の理解が進んでいないのではないか。
- ・現実問題として、親がつきっきりで一緒に学習を行うことは難しい。
- ・今日の学校での出来事などを導入にコミュニケーションをとることがいいのではないか。
- ・子どもの意見について、親が読み解く力をつけ聞いてあげる、子どもと対話する時間が必要。
- ・本を読んで、読み解く力をつけ、相手への思いやりや配慮することが出来る人間となってほしい。
- ・今の子どもたちはスマートフォンやタブレットで断片的に偏った情報を収集しており、得た情報を疑

わなくなっている。また、じっくり本を読むことをしていない。

・株に興味を持った生徒が自ら株に関連した本を読んだところ、国語の学力が上がったという話を聞いた。興味のある分野を見つけられるよう体験を増やすことで家庭がアシストできる。

教育長所感

毎回、熟議をすると、いろいろなアイディアが出てきて、なるほどなと思い聞かせていただいています。

ウェルビーイングという言葉をお聞きになったことがあるでしょうか。実は最近、教育の中では結構こう出始めている言葉です。これは今も未来も、身体的、精神的、社会的に幸せの状態であることという意味だそうです。すなわち学校は子どもたちのウェルビーイングを実現する場所にしなければなりません。そのためにも、授業の質を高め、学びを変えることが大切であると考えています。今までのような先生が大切なことはすべて丁寧に教えてくれる、待っていれば、誰かが指示してくれる一斉型の授業に加えて、子どもたちが自分の力で自力解決できるように、教員がアシストする授業にしようとしています。

板橋区では、授業そのものを変えて、自分の頭で考えられる人になろうというところを一つの目標に掲げ、板橋区授業スタンダードという授業の形、モデルの徹底を図っています。学校では必ず学びがあることが大切で、自分はやれば何とかできるようになるんだとか、自己解決するプロセスを体験することで、学ぶって楽しいんだという実感を伴うことで、子どもたちにとって学びが意味のない時間ではなくなると思います。

これから新しいことが出てきたときに、自分で学ばなければならないし、解決しなければならないになります。また自分のペースでやることと同じくらい人と協力してやることや、自分の苦手なところを誰かに補ってもらふこと、助けてということを大事にしていきたい。社会で生きていく上ではこれらができないと生きていけないのではないのでしょうか。そのためにも、授業の進め方を見直していく必要性を強く感じ、板橋区授業スタンダードに沿った授業革新を先生方をお願いしているところです。

先ほどちょっと出ましたが、1人1台タブレットの活用というのも、実は子どもたちの基礎学力の定着にはとても有効です。タブレットの中には、読み書き計算と昔から言われている基礎学力の一部が学習ドリルとして入っています。先ほどちょっと出ましたがそれはやらせていいのかどうかということなのですが、子どもの苦手を解析し、ピンポイントで子どもに合わせてカスタマイズして一人一人の個人差に応じた学習が可能となります。

これを学校はもちろん家庭学習として、家庭で行うことで、学校での学びの時間に余裕が出て、問題解決能力を育む時間の確保にも繋がります。こういったことを先生と子どもと保護者の皆さんが共有して取り組んでいくことで、板橋の子どもたちの学力が確実に向上するのではないかと思います。

先ほどご紹介した文部科学省の全国学力・学習状況調査をご覧いただくと、私たちの時代の調査と明らかに問題の質が変わってきています。とにかく、自分の考えを文章で表す問題が出ています。それが今求められている日本の学力なのです。それ以外に先生方も大変だと思いますが、それに合わせた授業の展開を考え、実践する。保護者も自分が経験してきた授業や学びと変化してきていることを理解することが大切なのではないのでしょうか。授業参観をして、私たちの時代の授業とは随分

違ってきていますねというのは、ひょっとすると、先生方への最大の賛辞になるかもしれません。

さて、それと同時に質の高い授業をするためには、先生方が学ぶ時間が必要となります。しかしながら、ご存知のように先生方はすることがたくさんあって、勤務時間中にじっくり授業準備をする時間がとれないのが現実です。それを克服する視点からも、授業時数や学校行事、部活動の見直しをするよう校長先生方には伝えています。もちろん学習指導要領という日本のすべての公立学校が守るべき決まりの範囲内ということですが、人は変化に弱いものです。自分の時代の学校との違いが目が行きがちですが、時代が変わっています。変化に賛成していただきたいとは申し上げませんが、せめて変化の様子をしばらく見守って欲しいと思います。

繰り返しになりますが、学力向上のためには、授業を変えることが不可欠です。そのためにも、先生方が授業改善のための時間をしっかり確保していくことが教育委員会の役割かなと思っております。

そのあたりのことを是非とも本日お越しの皆様にはご理解いただき、ご協力いただければ幸いと存じます。今日も充実した身近な教育委員会を実施することができました。心から御礼申し上げます。どうぞお気をつけてお帰りください。ありがとうございました。